

# 『井戸の日』記念フォーラム 2006 開催報告

(社)全国さく井協会  
北陸支部情報



## パネルディスカッション

【コーディネーター】

高倉 盛安氏 (元富山県立大学 短期大学部長)

【パネリスト】

『世界の雪とその変化』

三浦 豪太氏 (プロスキーヤー)

『雪を楽しみ、活用する』

対馬 勝年氏 (富山大学理学部地球科学科 教授)

『富山県の地下水保全施策について』

岩田 助和氏 (富山県生活環境文化部 参事・環境保全課長)

『YKKグループにおける水資源保全政策』

横倉 滋氏 (YKK(株)黒部事業所 環境安全衛生グループ長)

『「環境に優しい」井戸づくり』

大村 一榮氏 ((社)全国さく井協会北陸支部 副支部長)

2006年(平成18年)11月10日の『井戸の日』に富山大学黒田講堂を会場に『井戸の日』記念フォーラム2006「世界の雪と水」が井戸の日実行委員会(社)全国さく井協会北陸支部・北日本新聞社・(財)富山・水・文化の財団により開催されました。当日は約70名の方々に御来場賜りました。はじめに尾蔵 博氏(北陸支部副支部長)の開会挨拶から始まり、次に館 清文氏(富山県生活環境文化部次長)、岡崎憲明氏(社)全国さく井協会事務局長より来賓挨拶を頂戴いたしました。その後、基調講演・パネルディスカッションを実施いたしました。ホール外の1階では木戸瑞佳氏(富山県環境科学センター研究員)による雪の実験コーナー・パネリスト対馬勝年氏及び協賛各社によるブース展示・開き水チャレンジ等を実施いたしました。基調講演では『世界の雪とやまの雪』という演題でエベレスト登頂から見た世界の雪についてプロスキーヤーの三浦豪太氏に講演いただきました。又、パネルディスカッションではコーディネーターに元富山県立大学短期大学部長の高倉盛安氏を迎え、他5名のパネリストにより意見の交換が行われました。

ここでは、当日来場者向けに配布されたパネルディスカッション資料についてご紹介いたします。(内容を一部抜粋して紹介いたします。)

\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*-\*

**三浦氏:** 2003年、70歳になる父、三浦雄一郎とともに世界最高峰である、エベレスト登頂に成功した時、もう一つ隠れた企画がありました。それは、三浦雄一郎が33年前、エベレスト大滑降を行う前に事前トレーニングを行った、ジャングリラ氷河で高度順化と事前スキーを行うというものでした。しかし、実際に行ってみると、そこには黒々とした岩肌しか見えず、氷河は跡形もなくなっていました。また、25年前に家族で行ったキリマンジャロ頂上にて行ったクレター内のスキーですが、現在氷河が消滅し、今では永遠に破られぬ記録となってしまいました。

**対馬氏:** 氷河の溶け水による発電が北欧では盛んである。アメリカとカナダの国境にまたがる五大湖は九州や北海道ほど広い湖であるが、ここに降る雪や雨は豊かな電力資源となった。ナイアガラの滝の所では400万kWの水力発電、五大湖から大西洋に注ぐセントローレンス川をせき止めて低落差ながら180万kWの発電、さらに下流で運河に水を引いて150万kWの発電をしている。これらの豊富な電力で五大湖周辺に工業が栄え、豊かな生活に貢献した。富山県も雪や降水に恵まれ、黒部川水系、庄川水系でそれぞれ100万kWもの水力発電を行っている。日本の雪も水源は100平方キロの日本海であり、雪国は一方では日本海の恩恵を享受していることになる。

**岩田氏:** 本県における地下水採取量や地下水位は概ね横ばいに推移していますが、近年、都市化の進展や水田の減少に伴い、地下水涵養量が減少するとともに、依然として冬期間の地下水位の低下などがみられることなどの新たな課題が明らかになったことから、平成18年3月に再度地下水指針の見直しを行いました。また、地下水涵養施策を推進するために、昨年度に全国で初めて環境省、富山県、魚津市の3者が連携して実施した「休耕田等を利用した地下水涵養実証調査」を行うとともに、この結果をもとに「地下水涵養マニュアル」を作成しました。先般9月には、広く県民、事業者の理解を得るため「地下水保全・涵養推進シンポジウム」を開催したところであり、今後も、地下水涵養マニュアルを広く配布するなど、地下水の涵養の普及啓発を図ることとしています。

**横倉氏:** YKKグループの水資源保全に関する取組みは早くから始まっており、水資源を大切に扱う考え方はグループ全域に広がっている。まずコンプライアンスの観点から、排水の質に関してはそれぞれの国の基準値をクリアしていることはもちろんのこと、より厳しく設定されているそれぞれの地域との協定値を上回る自主基準値を設定し管理していることと、異常感知センサーを排水路の数箇所に設置し、非常時にも異常排水が社外に流出しにくい排水経路を設定し、回復訓練も定期的を実施することにより、社外への影響を最小限に止めるリスク管理を徹底的に行っている。水資源保全に関するもう一方の取組みは水量保全に向けての設備投資と社員への教育の徹底であり、社員のアイデアから実施された改善テーマの推進等により、現在では国内グループの地下水揚水量はデータを取り始めた1991年の40%程とコスト的にも十分な効果が現れている。

**大村氏:** 昔の井戸は共同使用が多く、最低限の使用量で小口径・手押しポンプ等が使用され絶対に過剰揚水にはならなかった。したがって、一人当たりの使用量は、40L/日がいつの間にか420L/日と増大し、工業用水の検討がなされ、排水規制が追加された。それに比べ追い討ちをかけたのが道路融雪水である。これが「地下水汚染」の始まりである。融雪水は多量に使用されるために、帯水層全体の取水を試み、水質の如何に問わず全体揚水型が多く、環境に優しいどころか、現在の破壊へと変化する結果となっている。まず、我々が出来ることは、目的に合った帯水層の選択と、地下水汚染となる多層取水(多重層の同時取水)には充分注意を払うべきである。

# Eco フレンド ズ

VOL. 17

【発行】平成19年3月  
富山県鑿井協会

〒930-0990 富山県新庄町一丁目十九番二号

☎〇七六-四四一-四二五七  
〇七六-四四一-四二八七

URL: <http://www.atw.ne.jp/~tomisaku/>  
E-mail: [tomisaku@atw.ne.jp](mailto:tomisaku@atw.ne.jp)



(写真: 高倉 盛安氏)

主催: 井戸の日実行委員会  
[(社)全国さく井協会北陸支部・北日本新聞社・(財)富山・水・文化の財団]  
共催: (社)全国さく井協会・富山テレビ放送(株)  
後援: 富山県  
協賛: 51社  
協力: 富山大学・YKK(株)黒部事業所・立山カルデラ砂防博物館・中谷宇吉郎雪の科学館・とやま名水協議会



## 消雪管洗浄工法の メリット

吹き出し口からの挿入工法のため、掘りおこし工事が不要。  
低コスト・時間もかからず、通行止めなどの弊害はほとんどありません。

超高圧水の噴射で洗浄することにより従来清掃が不可能であった曲折部の洗浄が確実に可能。

1日に70mの洗浄が可能。(作業現場の状況により変更有り)

ノズルからは超高圧水が勢いよく噴射するので、本管内のノズルの後方より水の噴出側が真空状態となり、ノズルより先方側の本管内の錆や砂等が、水の噴出側に吸い寄せられ、超高圧メッシュホースの届かない先方部に詰まっているものまでも排出させるのである。

**(有)P・クリーン**

## 豊かな水のある暮らしを作り 50年・・・

(株)土肥鉄工  
代表取締役 土肥 勝則 氏

父、郁則が25歳で創業し、以来年を重ねて本年の1月、お陰さまで創業50年が経過いたしました。

創業当初、機械類の製作・整備から発足した会社も、日本の発展と共に地域社会に育まれ、これまで鉄骨建築工事、さく井工事、配管工事、金型製作と様々な部門を増設して参りました。創業者の挑戦と努力を痛感しております。

50年の間には「高度経済成長」の波にのり発展を続けた時期や、「石油ショック」、「バブルの崩壊」という経済の大混乱に巻き込まれる時期もありました。これらの激動の時代を乗り越えて発展してこれたのも、ひとえに社員やご家族の皆様、そして地域の皆様のお力添えによるものと深く感謝しております。

さて、長年「土肥「鉄工」として慣れ親しんできた社名の鉄骨建築部門は縮小し、現在はスペシャリストとしてさらに技術の向上を目指し、さく井工事、機械設備工事、配管工事を主力としていますが、これからも50年の歴史を誇りに思い「土肥鉄工」として、地域の皆様の豊かな水のある暮らしを守るべく努力を重ねて参りたいと思います。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。



## (社) 全国鑿井協会 名称変更

(変更年月日 平成十八年十二月十八日)

謹啓 皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます  
このたび 当協会は 国土交通省のご高配により 協会の名称を社団法人 全国鑿井協会から 社団法人 全国さく井協会へと名称を変更することとなりました。  
つきましては 名称を改めたこの機会を生かし業界の向上発展等に全力を尽くす所存でございますので 何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます  
まずは略儀ながら書中をもってご挨拶申し上げます  
敬具

平成十九年一月吉日

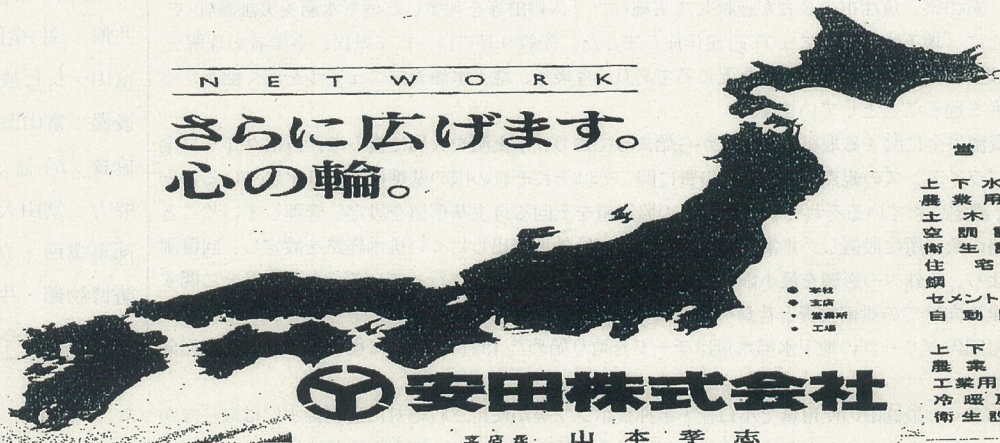
社団法人 全国さく井協会

会長 脇 雅史

### 編集後記

2001年から私共、富山県鑿井協会が開催してまいりました『井戸の日』ですが、2006年から新しく11月10日に生まれ変わり、(社)全国さく井協会北陸支部が主催となって、新『井戸の日』としてフォーラム開催を果たすことができました。我々会員一同も全力を尽くし、全面的にバックアップしてまいりました。ご協力いただきました皆様方には深く感謝申し上げます。ちなみに今年は石川県での開催となります。開催概要がわかり次第紙面にてお伝えして参ります。今後とも『井戸の日』への応援をどうぞよろしくお願いいたします。(総務部会)

NETWORK  
さらに広がります。  
心の輪。



**安田株式会社**

支店長 山本 孝志

富山支店 富山市黒崎618番地の1  
TEL (076) 429-2791 FAX (076) 429-2684  
高岡営業所 高岡市野村290番地 TEL (0766) 21-7481

### 営業種目

上下水道用資材販売  
農業用水用資材販売  
土木用資材販売  
空調設備資材販売  
衛生設備資材販売  
住宅機器販売  
鋼材販売  
セメント・生コンクリート販売  
自動販売機の販売

上下水道施設工事  
農業用水施設工事  
工業用水施設工事設計施工  
冷暖房空調設備工事  
衛生設備工事設計施工